

(1) 前回からの変更点について

①基本構想策定の背景について

①基本構想策定の背景について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念（基本構想全体を貫く考え方）
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

①基本構想策定の背景について

●基本構想策定の背景に関する意見

意見	対応方針
旧35区あった中で、対等な形で合併し、一文字ずつ名前を取っているのは大田区しかない。この点をもう少し強調できるとよいのではないか。	一段落目に「…「大森区」と「蒲田区」が 対等な形で合併し、両方から 一文字ずつを取って誕生…」を追記
前回の構想の時には区内産業の特徴を載せていた。新たな産業振興ビジョンの素案でも、卸売・小売業や運輸業と比べて、製造業の事業所数や従業者数は減ってきているが、売上高や付加価値額では製造業が大田区で最大を占めていることが示されている。このような特徴を背景に入れていただきたい。	一段落目の「高度な技術力を持つ多くの町工場」を「 区内の売上高・付加価値額の多くを創出する製造業をはじめとした国内有数の産業集積 」に修正
全国的に知名度の高い大森貝塚にも言及するのがよいのではないか。日本考古学発祥の地といった表現も入れられるとよい。	一段落目に「 日本考古学発祥の地と呼ばれる大森貝塚との深いつながり、 」を追記
0歳から4歳までのこどもが転出超過となっていることは載せた方がよいのではないか。	二段落目後半を「 一方で、15歳未満の年少人口の割合は、転出超過もあいまって11.4%から10.6%に減少しています。 」に修正
令和5年にSDGs未来都市と自治体SDGsモデル事業のダブル選定都市になったことには触れてもよいのではないか。	五段落目に「 また、令和5年には、SDGsに関する先進的な取組を行う自治体として「SDGs未来都市」に選定されるなど、誰一人取り残さない持続可能なまちの実現に向けた歩みを進めています。 」を追記

①基本構想策定の背景について

●基本構想策定の背景に関する意見

意見	対応方針
<p>背景の最後の文章について、「将来の大田区のあるべき姿を提示するため、新たな基本構想を策定いたします。」では、基本構想の主目的が将来像を提示することという印象を受ける。基本理念や基本目標等にも言及する表現の方がよいのではないか。</p>	<p>最終文「将来の大田区のあるべき姿を提示するため、新たな基本構想を策定いたします。」を「大田区に関わるすべての人々と今後のまちづくりの方向性を共有し、ともに魅力的な大田区をつくり上げていくため、新たな基本構想を策定いたします。」に修正</p>
<p>全体的に、暗い印象を受けたため、最後はポジティブに終わりたい。最後は、基本構想を区民との共通認識として持ち、一緒に実現するために策定した、というような終わり方にするのがよいのではないか。</p>	
<p>背景の締めくくりについて、もう少し積極的能動的な行動につながるような表現に検討いただきたい。</p>	
<p>背景について、審議会で出た意見を踏まえて文章をご検討いただきたい。</p>	<p>ここまでに記載の対応方針のとおり文章を修正</p>
<p>背景については様々な意見をいただいたので、事務局はもう一工夫する必要がある。まとめ方はポジティブにするのがよい。</p>	

○策定の背景

大田区は、昭和22年に当時の「大森区」と「蒲田区」が対等な形で合併し、両方から一字ずつを取って誕生しました。23区の中で最大の面積を有し、全国的に見ても大規模な自治体です。世界の主要都市とつながる羽田空港、区内の売上高・付加価値額の多くを創出する製造業をはじめとした国内有数の産業集積、にぎわいあふれる商店街、海辺や台地、多摩川など豊かな自然と美しいまちなみ、日本考古学発祥の地と呼ばれる大森貝塚との深いつながり、大正から昭和初期にかけて、多くの文人や芸術家が暮らした馬込文士村と称される馬込・山王地域などを有し、「東京の縮図」といわれる多くの魅力と可能性を持ったまちです。

大田区では、平成20年に基本構想を策定し、既に15年が経過しました。平成20年から令和4年の間に、区の総人口は約67万人から約73万人に増えましたが、年齢構成比を見ると、65歳以上の割合は20.1%から22.6%に増加しています。一方で、15歳未満の年少人口の割合は、転出超過もあいまって11.4%から10.6%に減少しています。

また、温暖化などに伴う気候変動により、区の平均気温は平成20年の16.2℃から令和4年の16.9℃へと上昇し、1時間の降水量が50mmを超えるような豪雨の発生件数も上昇傾向にあります。令和元年の台風19号では、上流域への記録的な降雨の影響により、多摩川の水位が大幅に上昇し、大田区にも甚大な被害をもたらしました。

そして、近年の新型コロナウイルス感染症の流行は、マスクの着用や過去に例を見ない行動制限など、人々の生活様式や働き方に大きな影響を与えました。一方で、対面での接触を避けるため、オンライン会議やキャッシュレス決済が浸透するなど、デジタル技術の活用がより一層進んだという一面もありました。

まちづくりについては、区の40年来の悲願である新空港線の整備に向け、令和4年に整備に関する都区間合意に至ったことで、羽田空港を含む区内外の移動利便性を向上させ、鉄道沿線のまちづくりに着実に取り組むための扉を開くことができました。また、令和5年には、SDGsに関する先進的な取組を行う自治体として「SDGs未来都市」に選定されるなど、誰一人取り残さない持続可能なまちの実現に向けた歩みを進めています。

区を取り巻く社会情勢は刻々と変化しています。今後、更なる進行が見込まれる少子高齢化や、地球温暖化に伴う自然災害の激甚化や生態系の変化、情報通信技術の加速度的な進展や不透明さを増す国際情勢など、様々な要因が複雑に絡み合うことで将来を見通すことが難しくなり、不確実性は増していくことが見込まれます。

このような状況を踏まえ、大田区に関わるすべての人々と今後のまちづくりの方向性を共有し、ともに魅力的な大田区をつくり上げていくため、新たな基本構想を策定いたします。

①基本構想策定の背景について

○策定の背景

大田区は、昭和22年に当時の「大森区」と「蒲田区」が対等な形で合併し、両方から一字ずつを取って誕生しました。23区の中で最大の面積を有し、全国的に見ても大規模な自治体です。世界の主要都市とつながる羽田空港、区内の売上高・付加価値額の多くを創出する製造業をはじめとした国内有数の産業集積、にぎわいあふれる商店街、海辺や台地、多摩川など豊かな自然と美しいまちなみ、日本考古学発祥の地と呼ばれる大森貝塚との深いつながり、大正から昭和初期にかけて、多くの文人や芸術家が暮らした馬込文士村と称される馬込・山王地域などを有し、「東京の縮図」といわれる多くの魅力と可能性を持ったまちです。

大田区では、平成20年に基本構想を策定し、既に15年が経過しました。平成20年から令和4年の間に、区の総人口は約67万人から約73万人に増えてきましたが、年齢構成比を見ると、65歳以上の割合は20.1%から22.6%に増加しています。一方で、15歳未満の年少人口の割合は、転出超過もあいまって11.4%から10.6%に減少しています。

また、温暖化などに伴う気候変動により、区の平均気温は平成20年の16.2℃から令和4年の16.9℃へと上昇し、1時間の降水量が50mmを超えるような豪雨の発生件数も上昇傾向にあります。令和元年の台風19号では、上流域への記録的な降雨の影響により、多摩川の水位が大幅に上昇し、大田区にも甚大な被害をもたらしました。

そして、近年の新型コロナウイルス感染症の流行は、マスクの着用や過去に例を見ない行動制限など、人々の生活様式や働き方に大きな影響を与えました。一方で、対面での接触を避けるため、オンライン会議やキャッシュレス決済が浸透するなど、デジタル技術の活用がより一層進んだという一面もありました。

まちづくりについては、区の40年来の悲願である新空港線の整備に向け、令和4年に整備に関する都区間合意に至ったことで、羽田空港を含む区内外の移動利便性を向上させ、鉄道沿線のまちづくりに着実に取り組むための扉を開くことができました。また、令和5年には、SDGsに関する先進的な取組を行う自治体として「SDGs未来都市」に選定されるなど、誰一人取り残さない持続可能なまちの実現に向けた歩みを進めています。

区を取り巻く社会情勢は刻々と変化しています。今後、更なる進行が見込まれる少子高齢化や、地球温暖化に伴う自然災害の激甚化や生態系の変化、情報通信技術の加速度的な進展や不透明さを増す国際情勢など、様々な要因が複雑に絡み合うことで将来を見通すことが難しくなり、不確実性は増していくことが見込まれます。

このような状況を踏まえ、大田区に関わるすべての人々と今後のまちづくりの方向性を共有し、ともに魅力的な大田区をつくり上げていくため、新たな基本構想を策定いたします。

(1) 前回からの変更点について

②基本構想の役割について

②基本構想の役割について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念（基本構想全体を貫く考え方）
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

②基本構想の役割について

●基本構想の役割に関する意見

意見	対応方針
<p>体系図について、理念が構想全体を貫いている部分の図式化をもう少し工夫してほしい。フォークの形をイメージしており、先端の枝分かれした先の部分に基本目標が繋がり、それを束ねている部分が将来像。持ち手の部分に基本理念があり、理念が隅々まで行き渡っている図をイメージしていた。説明文と併せて読むことで理解はできるが、図は目を引くので、貫く部分をもう少し工夫してほしい。</p>	※11頁にまとめて記載
<p>理念が土台として下にあると考えるなら、木の幹の部分と言える。それが枝葉をつけて上に広がっていくとすると、基本目標が上にくるような形になる。 ただ、全体の順番と読みやすさを考えると、木の形ではなく、フォークの形の方が分かりやすい。</p>	
<p>体系図の順番については、読み手の立場から考え、登場する順に上から整理されていると理解しやすい。</p>	
<p>基本理念が一番最初に来ることは変えない方がよい。</p>	

②基本構想の役割について

●基本構想の役割に関する意見

意見	対応方針
<p>関係の説明文と体系図が難しく感じる。前文の「貫くもの」という表現が抽象的。例えば、「貫く思想」や「支える土台」と変えることは可能か。</p> <p>体系図は基本構想の構造を表していると捉えると違和感を覚えるが、設計のプロセスと考えると納得がいく。構造とするのであれば、基本理念から基本目標を定め、それを用いて最終的にゴールするのが将来像という並びになる。土台とするのであれば、基本理念が一番下にあり、その上に基本目標、その上に将来像という形になるのではないか。</p>	※11頁にまとめて記載
<p>基本理念の説明について、貫くものというのは、貫く思想を支える土台という解釈でよいのか。理念から将来像、将来像から基本目標へというのは構造としておかしく、プロセスの図になっているのではないか。</p> <p>ベースに理念があって、それに基づいて基本目標を作って具体的に実行されると、最終目的である将来像が実現されるというのであれば、どちらが上になるか下になるかは別として、基本理念、基本目標、将来像という並びになると思う。</p> <p>一方で、設計した手順として、まず基本理念を定めて、その基本理念に基づいて将来像を描き、その将来像をどのように実現できるか考えた結果として、基本目標が定まったという説明をするのであれば、この順番でよい。</p> <p>基本構想の構造を説明したいのか、設計の流れを説明したいのかによって、図の配置は全く変わる。この図では意図するところが十分に伝わらないので、工夫の余地がある。</p>	

②基本構想の役割について

●基本構想の役割に関する意見

意見	対応方針
<p>一般の人がこの図を見てもイメージがつきにくいのではないか。根本に土壌としてある基本理念がベースとなり、そこから基本目標である幹を実行して育て、枝葉が咲くことによって、きれいな花として将来像が咲くという見せ方が区民に伝わりやすいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none">関係図の説明文「…基本構想全体を貫くものであり、…」を「…基本構想全体を貫き、…していく上での基本的な考え方です。」とし、意味が伝わりやすいように修正
<p>体系図について、基本理念3つの柱が全体を貫くような工夫の余地はあるのか、事務局で検討いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none">関係図は以下の2パターンを作成
<p>体系図で示したいのはこれらの関係性である。どのような思想が土台であり、どういったまちの姿を思い描いて、最終的にどういった将来像につながるのかを表すものなので、そういう意味では順番を入れ替えた方がよいかもかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none">① 基本理念を上置き、基本理念が全体を貫いていることを分かりやすく示した案 (A)
<p>体系図を答申書に入れないのであれば、審議会に2パターン出す必要はないと思う。</p>	<ul style="list-style-type: none">② 基本理念を土台として一番下に置いた案 (B)
<p>関係図は答申案には含まれないが、次回の会議で2パターン示し、最終アウトプットの構想に載せる関係図を審議会を確認する。</p>	

②基本構想の役割について

●基本構想の役割に関する意見

意見	対応方針
<p>体系図については、色合いなどを工夫することでより見やすくなると思う。</p> <p>基本目標をかつこ書きで補足するのであれば、基本理念もかつこ書きで（基本構想全体を貫く考え方）など入れることも考えられる。</p>	<p>1章の見出しを、 「基本理念（基本構想全体を貫く考え方）」に修正</p>
<p>基本理念にかつこ書きを入れることについて、入れた方が分かりやすければそのようにした方がよい。</p>	
<p>体系図作成の際には、今回はこの中に含まれていない個別目標、他施策が今後紐づいてくることも含めた全体のイメージをすることが必要ではないか。基本目標の下に個別目標、具体的施策が扇の末広がりのように広がっていくイメージを描いている。（中村委員 追加意見）</p>	<p>今回の図はあくまで構想に関する図であるが、個別目標（政策）や具体的な施策は基本計画で定める予定の項目であるため、基本計画において、政策や具体的な施策が構想の図の下に連なっていくイメージの掲載を検討</p>

②基本構想の役割について

○基本構想の役割

基本構想は、2040年ごろの大田区のめざすべき将来像を提示し、今後のまちづくりの方向性を明らかにした、区的最上位の指針です。

大田区に関わるすべての人々の共通の目標として、この基本構想を策定します。

②基本構想の役割について

※案A

「基本理念」とは、基本構想全体を貫き、「将来像」や「基本目標」を実現していく上での基本的な考え方です。
そして、「将来像」を実現するためのまちの姿として、4つの「基本目標」を定めています。

基本理念

地域力を高める

多様な個性が輝く

豊かなまちを未来へつなげる

2040年ごろの
大田区のあるべき姿

将来像

(将来像のフレーズ)

基本目標 (将来像を実現するためのまちの姿)

未来を創り出す
こどもたちが
夢と希望をもって
健やかに育つまち

文化を伝え育み
誰もが笑顔で
いきいき暮らすまち

豊かな環境と
産業の活力で
持続的に発展するまち

安全・安心で
活気とやすらぎのある
快適なまち

②基本構想の役割について

※案B

「基本理念」とは、基本構想全体を貫き、「将来像」や「基本目標」を実現していく上での基本的な考え方です。
そして、「将来像」を実現するためのまちの姿として、4つの「基本目標」を定めています。

将来像

2040年ごろの
大田区のあるべき姿

(将来像のフレーズ)

基本目標 (将来像を実現するためのまちの姿)

未来を創り出す
子どもたちが
夢と希望をもって
健やかに育つまち

文化を伝え育み
誰もが笑顔で
いきいき暮らすまち

豊かな環境と
産業の活力で
持続的に発展するまち

安全・安心で
活気とやすらぎのある
快適なまち

基本理念

地域力を高める

多様な個性が輝く

豊かなまちを未来へつなげる

(1) 前回からの変更点について

③基本理念について

③基本理念について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念（基本構想全体を貫く考え方）
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

③基本理念について

●基本理念に関する意見

意見	対応方針
<p>地域力の定義を明記しているのが「地域力を生かした大田区まちづくり条例」。この条例には既に企業を含んだ地域力の定義が記載されているため、この条例に基づいた定義を基本構想にも記載するのがよい。地域力は様々な方に浸透してきているものなので、定義を記載することに違和感はない。</p>	※20頁にまとめて記載
<p>基本構想には地域力の定義を載せず、理念の1つ目の柱の文章中に地域力が何かを分かるような表現で記載すべき。</p>	
<p>2つの条例にそれぞれ文言が違う形で地域力が定義されているとのことだが、地域力を明確に打ち出しているのは「地域力を生かした大田区まちづくり条例」。これは議会の議決を取っているものであるため、そもそも内容を議論するものでもなく、この条例の文言をそのまま入れるのがよい。</p>	
<p>地域力の定義を記載するとなると、「豊かなまち」など、他の言葉についても定義しなくてはならなくなるのではないか。地域力は皆共助のイメージで理解していると思うので、細かく定義することにこだわらなくてもよい。</p>	

③基本理念について

●基本理念に関する意見

意見	対応方針
<p>大田区で地域力の言葉を打ち出しているのは意味があることであり、地域力が改めて理念に入ったことはとてもよい方向性。特に現構想に記載されている「区民一人ひとりの力を源として」がとても素晴らしい。これまでの議論の中で「企業」を入れる方向性にもなっていたので、ぜひ基本構想には、「企業・事業者」となった定義を載せるべき。また「豊かなまち」などは様々な思いが反映される点なので、定義をしなくてもよい。</p> <p>また、この定義であれば特別現在の社会情勢と乖離しているわけでもないと思う。</p>	※20頁にまとめて記載
<p>地域力は大事なワードだが、この定義をより踏み込んだ形で表現することは、大田区議会や行政の中では議論されていない。</p>	
<p>この16年間で地域力の定義は浸透し、今や地域力の捉え方は人それぞれ異なっている。そのため、文言で記載するよりも、定義を外して、柱の文章中で地域力の意味を表現した方がよい。</p>	

③基本理念について

●基本理念に関する意見

意見	対応方針
<p>地域力の定義に「企業」を入れるかどうかの議論は議会でされていないという意見があったが、地域力の定義は「地域力を生かした大田区まちづくり条例」の中で議論を尽くしている。この条例には企業も含有されている。定義を載せなければいけないということでもないが、定義を記載することにそこまで議論をする必要もないと感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none">● 地域力の定義は基本構想内に掲載しない。● 理念の地域力の柱の文章の中で地域力の説明を補う形で、「区民一人ひとりの力を源として魅力ある地域を創造していく」「地域力」をより一層高め…」と修正
<p>この16年間で培った地域力は、これからの20年も土台になるべき大事な大田区のものであり、基本構想の中でも土台となつてほしい大きなワードである。基本理念の中で一番最初に「地域力を高める」と入っているので、定義はここに載せなくてもよいのではないか。</p>	
<p>「地域力を生かした大田区まちづくり条例」内の地域力の定義をそのまま記載すべきという意見と、条例内には「区民一人ひとりの力を源として」等の文言が抜け落ちているので、改めて今回定義づけすることはせずに、柱の文章の中で表現すべきという意見が出ている。そもそも地域力の定義は基本構想が担うものでもないため、構想内で定義付けするのではなく、柱の文章の中で地域力を表現する案がよい。</p>	

③基本理念について

○基本理念

基本理念

1 地域力を高める

地域のつながりを強化することは、防犯・防災対策、安心して子育てできる環境づくり、暮らしの活力の創出など、多様な分野の課題解決につながります。区民一人ひとりの力を源として魅力ある地域を創造していく「地域力」をより一層高め、区民、企業、地域団体や行政など、組織や世代を越えて大田区に関わるすべての主体が連携・協働することにより、安心して暮らせるあたたかいまちをつくります。

2 多様な個性が輝く

一人ひとりがお互いの個性を尊重し、支えあうことで、それぞれの力が発揮され、新たな価値観の発見や可能性の創造につながります。ありのままの自分で生きることができ、多様な個性がそれぞれの持ち味を活かすことにより、誰もが自分らしく活躍できるまちをつくります。

3 豊かなまちを未来へつなげる

区の歴史や文化を引き継ぎ、未来にわたって持続的な発展をしていくためには、先を見据えながら、変化の激しい時代にしなやかに対応することが重要です。区の特徴を踏まえ、長期的な視点をもって、柔軟かつ利便性の高いまちづくりを進めることにより、誰もが豊かに暮らし続けることができるまちを次世代に引き継ぎます。

(1) 前回からの修正点について

④将来像について

④ 将来像について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念（基本構想全体を貫く考え方）
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

④ 将来像について

● 将来像に関する意見

意見

①が素晴らしくよく、①か②がよい。③は少し長い。

「やすらぎ」「はばたく」「笑顔」という3つの言葉は欠かせないと思うので①案はよいと思うが、①のままだと他の自治体でも使えそうな気がする。

「やすらぎ」という言葉で安全・安心を表現する場合、下の文章で説明が必要。説明があれば①でもよいと思う。大人・こどものアンケートで安全・安心に関する回答が多かったことが形になっているという表現を説明文に加えてほしい。

安心と豊かさをイメージした①か②がよいが、②の末尾を「大田区」とすると「はばたく大田区」と「く」が被ってしまうため修正したほうがよい。①と②のそれぞれの要素を組み合わせるとよい。

アンケートで子どもに関することが一番多かったことを考えると、子どもたちが未来にはばたくことを表現した①がよい。

①がよいと思うが、ホップステップジャンプという流れとしては「未来へはばたく」を最後に置いたほうがよい。

大田区としての特徴がないという意見もあったが、安心できる①がよい。

①がよい。「未来へはばたく」「笑顔のまち」は区制70周年の「笑顔、このまちから」を想起させる。「笑顔のまち」を行政の中でテーマとして出してきたと感じる。

地域性が出ていないことが気になる。「心やすらぐ 未来へはばたく滑走路 笑顔のまち 大田区」とすると、羽田空港を擁する自治体として個性を表現できるのではないかな。

大田区の特徴がないという意見もあるが、20年後のことを考えて、「笑顔のまち」をこれが大田区であるとキャッチフレーズに掲げてやっていくのもよいのではないかな。

④ 将来像について

● 将来像に関する意見

意見

②がよいと思う。さらにシンプルにするなら「笑顔咲き 未来かがやく はばたく大田区」がよい。あえて字余りにすることで、「大田区」に意味を持たせることができる。

「未来」と「はばたく」を離すことで、空港がある大田区を表現しており、②がよい。

③は長いがストレートでわかりやすい。

混沌とした時代だからこそ安心安全をストレートに打ち出したほうがメッセージ性として伝わりやすい。区民アンケートの結果、「こども」と「安心安全」が上位にきていることを考えると、区民とともに作り上げた将来像となる。そのため、③の要素が含まれたものがよい。

ただ、③はキャッチコピーとしては長いと感じる。

将来像を表すスローガンを決めるのか、将来像の内容をкаいつまんだ説明を決めるのかによって選択肢が変わってくるが、スローガンを決めるとしたら③は長すぎる。

③は説明口調で長い。

④がよい。地域で安心安全を培うことに加え、大田区としての独特な工業・商業といった地域のパワーも含まれてくるため、基本目標の4本の柱が全部うまく達成されることでよいまちになることが表現できる。区民と行政の協働も地域の力に繋がるという点など、様々な要素を読み込める。

④は現構想の将来像と類似している。

④について地域力は将来のビジョンを達成するための方略の1つであると考え、将来像に入れるのではなく、もうひとつ下の目標に入れるのがよい。

「地域力」は将来像としてはやめたほうがよい。

④ 将来像について

● 将来像に関する意見

意見

大田区は、大森区と蒲田区が一緒になってでき、歴史をつないできたため、漢字の「大田区」がよいのではないかと。

「おおた」という表現は、漢字で「大田区」でよいと思う。

「大田区」は漢字がよい。

「大田区」は漢字がよい。行政では「おおた」を使うことが多いが、区民は普段「大田区」を使うことが多い。

「大田区」は漢字がよい。歴史的背景も含め、大田区の成り立ちを子どもたちにもしっかり知ってほしい。

現構想の将来像は漢字が多いため、「おおた」が平仮名の方がバランスがよかった。漢字・平仮名のどちらがよいかは全体のバランスだと思うが、いずれにせよ「区」はつけた方がよい。今回の案は漢字でもバランス的に悪くないので、漢字でもよいと思う。

漢字表記「大田区」を推す意見が多く、反対意見もないため、漢字表記「大田区」とする。

④ 将来像について

● 将来像に関する意見

意見

区民から覚えていただきやすい、コンパクトにまとまっている形がよい。

こどもや区民の笑顔が地域で花開いていく区政をめざし、「笑顔」をキーワードに取り組んでいる。それが最初に来ると前向きなイメージで捉えていただけるのではないか。

- 「はばたきとやすらぎ 空・海・陸が交わる 笑顔のまち 大田区」
- 「こどもが羽ばたく 誰もがやすらぐ 選ばれる笑顔のまち 大田区」

①を推す意見が多い印象だが、②もよいのではないかという意見や、もう少しこどもをイメージできるようにという意見もあった。この場で1案に確定するのは難しいため、今日の意見を踏まえて、事務局と牛山会長と会長代理で最終案を検討させていただき、次回提示させていただきたい。

「笑顔」は外せないキーワードである。皆様の意見を踏まえて、最終案を検討させていただきたい。

④ 将来像について

心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区

○ 説明文

これまで築いてきた地域のつながりを大切にし、暮らす人・働く人・学ぶ人・訪れる人の誰もが、安心して心穏やかな日々を送ることができるまちをつくります。

また、こどもから大人まで、誰もが夢や希望をもち、未来を切り拓くことができる活力あるまちをつくります。

日々のやすらぎと未来への希望により、笑顔があふれるまちの実現をめざし、「心やすらぎ 未来へはばたく 笑顔のまち 大田区」を将来像として掲げます。

(1) 前回からの変更点について

⑤基本構想を実現するために について

⑤基本構想を実現するために について

新たな基本構想の構成

序章	基本構想策定の背景
	基本構想の役割
第1章	基本理念（基本構想全体を貫く考え方）
第2章	将来像
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）
第4章	基本構想を実現するために
参考資料	

⑤基本構想を実現するために について

●基本構想を実現するために に関する意見

意見	対応方針
<p>5番目の柱について、「スピード感を持って」の表現に違和感がある。最近政治などでも流行している言葉だが、「丁寧かつスピードも意識しながら」とストレートに表現した方が分かりやすい。現在の流行り言葉は2040年には使われているとは限らないので、使用しない方がよい。</p>	<p>「スピード感を持って」という表現は修正せずにそのまま採用</p>
<p>「スピード感」について、区長も就任されてから頻繁に使用している。そのような区長の方針も含めて、この言葉が使われているのではないか。</p>	
<p>区長に就任して以来、区民を幸せにしたいという信念により、スピード感を持ってやっていきたいという思いがある。区民の要望に対しては後回しではなく、スピード感を持ってやっていきたい。</p>	
<p>「スピード感」について、区長がそのような考えであり、他の委員の皆が賛成するのであればこれでよい。</p>	
<p>④シティプロモーションの強化について、1行目に住む場所・働く場所・訪れる場所とあるが、学ぶ場所という視点が抜けているので、入れていただきたい。</p>	<p>④シティプロモーションの強化の柱の「住む場所・働く場所・訪れる場所」という記載部分に、<u>「学ぶ場所」</u>を追加</p>
<p>④シティプロモーションの強化について、学ぶ場所はぜひ入れていただきたい。</p>	

⑤基本構想を実現するために について

○基本構想を実現するために

基本構想を実現するために

①基本計画の策定

基本構想で描いた将来像を実現するためには、その道のりを未来から現在へさかのぼり、戦略的に政策体系を整理した基本計画を策定し、着実かつしなやかに推進することが重要です。

基本構想の目標年次である2040年ごろだけでなく、2030年SDGsの達成や2050年脱炭素社会の実現といった、他の重要な目標の達成年次や社会情勢等を踏まえた上で、戦略的に政策を展開します。

また、計画の進捗状況について評価・分析を行うとともに、社会情勢の変化等に応じて適時見直しを行うことで、不確実性の高い時代においても、基本構想の実現に向けた取組を着実に進めていきます。

②持続可能な自治体経営

区を取り巻く社会経済状況が変化する中においても、新たな基本構想を着実に推進するためには、将来にわたり行政が持続可能性を確保することが重要です。

その実現に向け、人材・財源などの区が有する経営資源の最適化や、デジタル技術を用いた業務の抜本的な変革など、生産性向上に資する取組をまとめた具体的な戦略を策定し、実践します。

③区民や地域団体、企業との連携・協働

基本構想で描いた将来像を実現するためには、大田区に関わるすべての人々が力を合わせてともに取り組んでいくことが重要です。そのため、様々な機会や手段を通じて、迅速かつ着実に情報発信を行うとともに、区民の様々な声を大切にし、区政への区民の主体的な参画を推進します。

さらに、自治会・町会、企業、団体・NPO及び学術機関等の様々な主体による連携・協働を一層推進し、多様化する地域課題に迅速に対応します。

また、企業等と行政のそれぞれが持つ強みを活かし、新たな価値を創出するとともに、区民・企業等・行政の真の「三方良し」を実現します。

⑤基本構想を実現するために について

基本構想を実現するために

④シティプロモーションの強化

基本構想の実現に向けては、住む場所・働く場所・学ぶ場所・訪れる場所として選ばれ、まちの活力を維持・向上させていくことが重要です。そのため、多様な魅力や地域資源を踏まえた戦略的なプロモーションにより、区の認知度やブランドイメージを向上させます。

また、大田区での暮らしに愛着や誇りを持てるよう、区民に対しても積極的に区の魅力を伝えていきます。

⑤職員一人ひとりの意識・資質の向上

基本構想で描いた将来像を実現していくためには、職員一人ひとりが、自ら考え、行動することが重要です。

社会変化や技術革新の動向も見据え、職員は、区政を担うプロフェッショナルとして職務に取り組むとともに、常に区民目線に立ち、丁寧かつスピード感を持って対応していくことが求められます。

新たな知識や技能の習得だけでなく、幅広い視野や経営的な感覚を持ち、多様化する行政課題への迅速・的確な対応に向けた専門性の向上を図ることで、区民サービスの質の向上につなげていきます。

(1) 前回からの変更点について

⑥答申の構成について

⑥ 答申の構成について

● 答申の構成要素に関する意見

意見	対応方針
名簿でふりがなが名前と同じスペースをとっているのはあまり見たことがないので違和感を感じたが、他の委員が異論ないのであればこのままでかまわない。	ふりがなを記載することとし、修正はしない。
ふりがながあった方が間違いがないため、ふりがなは掲載する。	

⑥ 答申の構成について

構成	
答申にあたって	
序章	基本構想策定の背景と役割について
第1章	基本理念（基本構想全体を貫く考え方）について
第2章	将来像について
第3章	基本目標（将来像を実現するためのまちの姿）について
第4章	基本構想を実現するためにについて
区民への展開等に関する付帯意見	
<ul style="list-style-type: none">本基本構想は大田区に関わるすべての人々の共通の目標であるため、こどもから大人まで、誰もが共感し、理解することができるよう、簡潔で分かりやすい構成や表現に努め、区民への広報に注力すること。	

参考資料（※答申に当たっての参考資料）	
1	大田区基本構想審議会諮問文
2	大田区基本構想審議会条例
3	大田区基本構想審議会委員名簿
4	大田区基本構想審議会及び専門部会の審議経過
5	区民等からの意見募集の実施概要

(1) 前回からの変更点について

⑦和暦・西暦の表記及び表記ゆれの修正について

⑦和暦・西暦の表記及び表記ゆれの修正について

●以下の方針で年の表示や表記ゆれ等を修正した上で答申（案）に反映

①原則和暦を使用

※例外

- ・ 「2040年ごろ（令和22年ごろ）」（将来像等における表現）
- ・ 「2030年SDGs」、「2050年脱炭素社会」

（基本構想を実現するために 柱①の表現）

②表現や表記ゆれの統一

【例】

- ・ 「温暖化」と「地球温暖化」が混在していたため、「地球温暖化」に統一
- ・ 「基本構想で描いた将来像を実現するためには」、「基本構想を着実に推進するためには」等が混在していたため、「基本構想で描いた将来像を実現するためには」に統一